

## 令和7年度 第2回 野洲市地域公共交通会議 議事要旨

日 時	令和7年10月6日(月) 14:00~15:05
場 所	野洲市役所本館3階 第1委員会室

- 出席委員：井上会長、田中康嗣委員、岩井委員、小林委員、清水稔委員、今西委員、北村委員、田中暢之委員、池田委員、塚田委員、中村委員、野村委員、松尾委員、岡本氏(山下委員代理)、喜多畑委員、清水宏孝委員、田部委員、井狩委員、北田委員、布施委員
- 欠席委員：福島副会長、桑委員、井出委員、西村委員
- 事務局：都市建設部 今在家次長、中村次長  
都市政策課 吉川課長、山田課長補佐、森岡主事  
高齢福祉課 丹沢主査
- 傍 聴：4人

### ○会議結果

#### 議題

- (1) 野洲市コミュニティバス再編検討について  
→報告

### 1. 開会

### 2. 挨拶

都市建設部長：本日は、委員の皆様にはご多忙の中、ご出席いただき感謝する。平素は、野洲市の公共交通の維持、発展にそれぞれのお立場でご支援、ご協力いただき厚くお礼申し上げます。

本市では、今年度を目途に、令和9年3月に開院予定の新野洲市民病院に併せた野洲市コミュニティバスに係る再編について検討を進めているところである。本日の会議においては、再編に向けた利用状況の分析や再編の方向性等について、お示ししたいと考えている。委員の皆様においては、忌憚のないご意見、ご提言をお願い申し上げます。

本日は限られた時間ではあるが、有意義な会議となるようお願いし、簡単ではあるが、開会の挨拶とさせていただきます。

### 3. 議事

#### (1) 野洲市コミュニティバス再編検討について

事務局：資料1により説明

会 長：質問、意見はあるか。

会 長：中高生のバス利用は、どのような目的のものが多いか。

事務局：本年2月のアンケート調査では、塾、友人との約束、野洲駅が多かった。

委 員：利用者数の計測は、どのようにしているのか。

事務局：運転手の横に乗降カウント用の押しボタンを用意しており、乗降時に運転手がボタンを押して記録している。ただし、乗降時に乗客から質問を受けた際等で押し漏れがある。別途、運賃収入等から全体の数字を計測しており、その数字との誤差から押し忘れがどのくらいあるか把握はしている。

委員：ボタンを押すのは、乗客と運転手か。

事務局：乗客が押すボタンはない。乗客を確認し、運転手がボタンを押す。

委員：押し忘れが発生し得るものなのか。

事務局：10人ほどの乗降がある場合は、押し忘れが生じている場合がある。降車時に運賃確認もしており、利用者数をカウントしながら運賃額を確認し、乗客が無事に怪我なく降車できるようにすると、どうしても完璧にこなせないところがある。乗客の怪我がないことを最優先とし、可能な範囲での計測とするよう、運行事業者に依頼している。

委員：ハイエース車両の定員は何人か。

事務局：ハイエース車両は14人乗りだが、運転席と助手席は乗客用ではないため、定員は12人である。

委員：助手席には座れないのか。

事務局：助手席に関しては、基本的には誰も座らない。新たな乗務員が来た際のみ、2人体制で運行するが、基本的には運転席の乗務員1人での運行となる。

委員：バス停留所に自転車が数台置いてあるのを他市では見かけるが、野洲市では見かけない。

事務局：本市では、バス停留所に駐車場・駐輪場を提供していない。野洲市地域公共交通計画にて位置付けた、バス利用者の北部合同庁舎の駐車場・駐輪場活用については、一般に示してはいないが、担当部局に了解を得ている。

委員：自宅からバス停留所まで遠く、高齢者では歩くと時間がかかる。野洲駅北口であれば県道2号線に停留所が数か所あるが、北口周辺は乗降者が少ない。県道2号線は、永原、富波まではドクターロードといわれ、開業医が多い。そのため、大きな手術等の場合を除き、新病院へも利用者が少ない。新病院へのアクセスには、南口からより北口の方が近い。中主等は北口の利用が多い。そうした事項を考えなければ、バスの利用者は少ないと思う。

事務局：ご指摘のとおり、あやめコース、安治コースは、北口を中心に回っている。これらのコースでも、南口で利用者数の多いアル・プラザや野洲市役所を経由しており、この点が運行時間の長時間化に繋がっている。北口、南口で発着を分離してでも運行時間短縮を図る必要性は認識している。コミュニティバスのみならず、様々な交通手段を用いて病院と連携し、病院だけの便ではなく、全ての人が平等に使えるように検討したいと考える。

委員：あやめコースは、北口にアクセスしたのち新病院へ行くのか。あやめコースから新病院へ直行するバスはあるのか。

事務局：あやめコースは、現在総合体育館の乗継はしていないコースである。具体のコースは、次回の会議でお示しする予定であるが、あやめコースを新病院に乗り入れると運行時間が長くなる。病院との協議を要するが、例えば乗継をしてでも運行しやすい体系がないか等、コミュニティバスだけで考えるのではなく、病院が考える輸送と民間との共存など、3つの体系で考えていきたい。

会長：今回の調査分析により、コミュニティバスは利用実態が可視化された。便数増加ができるというが、時間帯によっては必要性に疑問を感じる便もある。午前中は、定時定路線で今後も設定していくなかで、運転手の負担を考えるとどれだけ運行時間が短縮できるかが鍵になる。一方で、利用の少ない停留所は議論が必要である。皆に等しくサービスを供給しようとする、所要時間が増大する。そのため、地域とのすり合わせも必要である。新病院については、駅から病院への便数を確保したうえで、コミュニティバスの乗継環境を改善し、乗継いでいただく方法もある。

同じコミュニティバスでも、地域インフラとして機能しているコースと、自家用車がない人向けに届くサービスとして機能しているコースの2種類となっている。利用の多いコースは、地域にとってなくてはならない存在であり、今後も継続した運行が必要であ

る。また、このようなコースはさらに増便等を行うのが適切だろう。ほぼ利用のないコースは、同じコミュニティバスでも、視点を変える必要性を感じる。利用の少ないコースは、便数を倍にしても利用者が大きく増加するか疑問である。そうした場合、利用の少ないコースでは、自動車運転免許を持たない、運転できない人を把握し、そうした人々の意向にあったサービスへ変えていくことも必要である。対して、多くの方に利用いただいているコースは、日常生活に溶け込んでいることから、さらなる利便性の向上により利用者数の維持・増加が期待できる。

会 長：他に質問、意見はあるか。

状況が可視化され、そのうえで今後どのように進めていくかという視点が見えてきた。

これらを踏まえ、今回は再編骨子案の協議に向けて進んでいく。

今回の内容は、ご理解いただいたということでしょうか。

全 員：異議なしの声。

#### 4. その他

会 長：予定の議題を全て終了とする。他に議題等あるか。

会 長：国スポの状況等はどうか。かなり人の来訪があり、臨時バスの運行もある。普段と違う状況であり、自家用車運転の際には事故がないように願う。

委 員：国スポ会場である総合体育館は、一般車が進入できない。休日は、駅前に大型バスが停車しており、駅からのピストン輸送になっている。そのため、地元の方は会場に行っておらず、盛り上がっていない。学校関係は、小学6年生が明日行く予定だが、一般の方が行きやすいようにしてもらわなければ、折角開催しているのに住民は行けない。希望が丘でも、自家用車がないとバスでは不便で行けない。改善策を考えていただかなければ大変である。

事務局：国スポについては、総合体育館の駐車場台数に限りがあることから、駅前とさざなみホールとの2つの駐車場に分散させ、各駐車場からシャトルバスを運行している。ただ、QRコードの読取りが必要であり、不慣れな方には不便をかけている。情報発信は、事務局である市民部としてはできる限り実施したとのことであるが、そうした点が課題として見えてきたかと思う。次回開催するとなると40数年後であるため、今回の課題は次回以降に引継いでいけるとよいと考える。

会 長：大阪・関西万博が終わると、もう少し国スポが盛り上がるのではないかと思う。

委 員：野洲地域の詳細は把握していないが、天津市の例をいえば、ダイハツアリーナ（県立体育館）がある。自家用車の駐車可能台数が少ないことから、天津市の場合はパークアンドライドといい、近隣に駐車場を設置し、その駐車場までは自家用車で移動し、そこからバスでアリーナへと輸送している。しかし、バスに乗り切れないほど利用のある場面もある。天津市の場合は、様々な会場に多くの住民が来訪している。先日のダイハツアリーナでのバスケットボール（少年男子、青年男子）の試合でも、多くの来訪があり、パークアンドライドが成功していると認識している。

会 長：パークアンドライドは新しい試みであり、利用に際しての心のハードルがあるかもしれない。しかし、今後はより一般的になっていくだろう。野洲駅での案内動線は明確であり、よかったと思う。

#### 5. 閉会

事務局：慎重な審議に感謝する。本日の会議を終了する。

以上